

木々も赤く染まり、肌寒さを感じる季節になってきました。
そんな中、入職者もどんどん増えていき、各部署充実してきたように思います。
今回は、各部署の入職職員について取り上げてみました。
入職されて約半年経過された方を対象に、ご本人からは、何を学び、
どう変化してきたか、又はエピソード。上司又はプリセプター(先輩)の方からは、
各部署の教育方針や指導者として感じたこと、考えたことをお伺いしました。

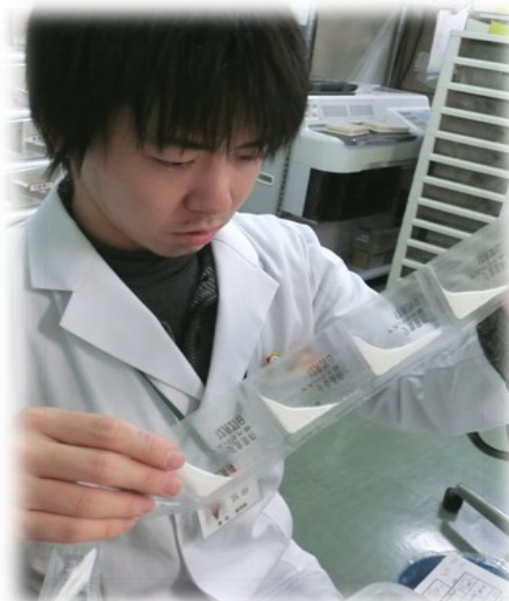


薬 局

筑田康裕さん



入職したての頃、頭が一杯で何から始めたら良いか分からない状態が続いていました。まず、ベテランの方達から当院の紹介を受けて、薬局での基本的な動きを聞き、そして、注射・定期処方・臨時処方・外来処方の対応の仕方を聞き、仕事にも徐々に慣れてきました。5ヶ月過ぎて、リスク委員のメンバーとなり、またトライやるウィーク(中学生の職業体験)を担当し、とても緊張しました。まだまだ通常業務で頭が一杯になることが多いですが、頭の中を整理してこれからも当院に人生を捧げていきます。



散 剤 の 監 査 中

安居薬局長



《病院薬剤師に必要な事》

- ①「知識」最新の情報を得、使いこなせる知識を持つ。
- ②「コミュニケーション能力」リーダーシップ力やコーチング力に発展。
- ③「仕事の処理能力」仕事の流れを理解し、流れに乗り、止めない。

常に前向きに仕事を行う為に、まだまだ発展中の彼自身が成功体験を経験し、達成感を持つ機会と考え、今回のトライやるウィークの準備、指導を任せてみました。さて、中学生の感想はいかがでしたでしょうか？

本館 2 階

正井康晴さん

入職して6ヶ月の間、介護士として病院で働かせて頂いていました。6ヶ月の間介護士の方々がどのような所で患者様に関わっていくのか、又、患者様の接し方や対応、患者様の動きもそれぞれ違っており、患者様一人一人に対し、こちらも違った動きをしなければいけないという事を学び、教えて頂きました。こういった事を考えて、働かせて頂いている内に、他人に対しての話し方や心遣いが、かなりまるやかになったと自分自身感じます。

内橋介護主任

教育方針は、思いやりのある、信頼される介護を提供できる。入職当初は、病棟の雰囲気慣れること、業務を覚えることに精一杯で介護という仕事が多様なものか考える余裕すらなかったように感じました。6ヶ月が経ち、勤務中の姿を見ていると、介護の仕事に向き合うことができ、患者様に対してどのようにあるべきかという価値判断能力がついてきたと思います。手順だけを指導せず、何を優先し、大切にすることも伝えるべきだと考えます。



食事介助中

本館 3 階

堺介護副主任

入職者の指導に携わり、自身が新人の頃になると、見て学ぶことが少なくなってきたように感じます。どう指導すれば相手に通じるのか試行錯誤の毎日でした。指導者1人で新人を育てていくのではなく、スタッフの協力がとても大切であると学びました。また、自分ならどのように指導してもらおうと前向きに頑張れるか、など相手の気持ちを考えてようになり、人として少し成長できたと思います。

丸山一徳さん

回復期リハ病棟の介護職に就いて、患者さんの体の動かし方から習い、食事の介助の仕方や、口腔ケアの方法、排泄ケアの方法などの技術的な事から、患者さんの気分のケアといった精神的な面まで学び、どのようにすれば安楽かを知りました。ケアに入り、患者さんとのコミュニケーションを取る中で、言葉が出ない患者さんでも自身の思う事を表に出されている事を知り、回復期病棟とは非常に興味深いと思いました。



リネン交換中

療法部



ストレッチ中

石原 祐さん

入職当時は、右も左も分からない状態で患者様との会話やカンファレンスなど、何をするにしても緊張の連続でした。初めは、患者様の状態の把握やアプローチの仕方など、分からないことが多々ありました。その都度、病棟の皆様や療法部の先輩方にご指導を頂き、現在は少しずつですが業務に慣れてきました。今後も、皆様にご指導を頂きながら一日も早く一人前の理学療法士になれるように、精進していきたいと思っております。



小林理学療法士

入職当時と比較し、患者様との何気ない会話を楽しむ余裕も出てきており、“新人”ではなく、“セラピスト”として仕事と向き合えるようになってきていると感じます。何より「自ら積極的に学ぼうとする姿勢」が見られるようになってきています。自身の業務に加え、指導を行う機会を作ることは大変でしたが、改めて自身の考え方を客観的に知ることが出来る、良い機会になったと思っております。

地域連携室

右近室長

森本君が入職して丁度半年が経ちましたが、もう一人前に仕事をしてくれています。地域連携室には様々な仕事が飛び込んできます。役所へ行ったり、施設へ行ったりと院外での仕事も多くありますが、臆することなく経験を積んでくれています。地域連携室は「習うより慣れる」の精神で、自分の目の前にいる患者様にとって何をすべきか、を大切にしています。森本君が積極的に業務に就いてくれていて、頼もしく感じています。



森本祐介さん

入職して半年が経ちます。私は病院での仕事はド素人で、ほとんどの事がゼロからのスタートでした。初めの3ヶ月は先輩MSWに付きっきりでした。面談、カンファレンス、外出にひたすら付いて回っていました。(盗めるものは盗む、疑問に思ったことがあれば質問する、といったようにして)この下地を固める期間があって、現在では数名の患者様のケースを担当させて頂いています。これからも日々向上心を持って、仕事と向き合っていきたいと考えています。



電話対応中

訪問看護



浦上訪問看護師



6月に入職し、7月はリサーチと営業、8月には3件のご契約を獲得し、9月には在宅での看とりを経験しました。訪問件数は順調に伸びています。在宅は、雑用も多く、不規則な勤務になりがちですが、住み慣れた環境で暮らしによりそう看護ができる点が喜びです。超高齢化社会を迎え、家での看とりが今後ますます増えると言われていました。在宅を支える部署との交流を深め、よりニーズに答えられる訪看づくりに励みたいと思っております。



必要物品の準備中

今回、入職スタッフの方、指導者の方から頂いたメッセージを通して皆さんが試行錯誤の中、それぞれが考え、学び、頑張っておられる様子が伝わってきました。

今は、薬剤師、介護士、メディカルソーシャルワーカー、理学療法士と専門職になる為の基礎作りの時だと思います。

又、上司やプリセプター先輩の皆さんも横に立ち、一歩前に立ち、付かず離れず、進むべき道を示してあげるべき時期で大変ですが、「病院の理念」を持って、育てられていることを感じました。

病院理念：「私達は患者様の立場に立った医療を実践し、
社会の要請に応じて科学的、創造的
かつ適正な医療を提供することにより、
患者様の生活の質の維持・向上に努めます。」

私達、ISM(新聞制作担当者)は、みきやまりハビリテーション病院の理念を柱に、アットホームな当院の雰囲気の中で、職員みんなが一丸となり、責任感を持って、明るく、優しい専門職の仲間を1人でも多く育てて欲しいと願っています。新人の皆さん、指導者の皆さん、今しばらく育成期間が続くと思いますが、私達も全力でサポートしていきますので、頑張ってください。